

生命の海から

学芸員 森 浩嗣

バラバラの骨を組み立てろ

春は出会いと別れの季節。仲の良い友だちとも「バラバラ」に…。私が「バラバラ」で思い出すのはカメの骨格標本作成です。骨から肉を完全に落とすために、ピンセットや爪楊枝もつかってクリーニングしました。当然ながらその過程で骨はバラバラになります。バラバラになつた骨を組み立てるのは、実物を知つていて、参考資料を見ながらでも大変です。

今生きている動物でさえ大変なのだから、絶滅してしまつた動物、まして参考となりそうな近い仲間が絶滅してしまつた動物の復元は非常に困難です。科学館のホールに展示されている首長竜も例外ではありません。首長竜の場合、最初に発見されたときは頭がしつぽの先につくられて、前後に復元されてしまつた



バラバラになつたカメの骨格

という話が残つています。考えてみれば、今生きているハエ類には、トカゲのようにしつぽが長いものはいても、首長竜のように首が長いものはいません。研究者が間違えたのも無理はないでしょう。これほど大胆な間違いではありませんが、当館の首長竜にも本来の姿と異なる部分がいくつかあつたため、首長竜の復元骨格の修正を行つてきました。この修正により首長竜はより真実に近い姿になりますが、今後の研究でさらに正確な姿が明らかになるかもしれません。季節も人も古生物の復元も、移ろいゆくものなのです。

ショー

ワークショップ

おはなし

3月 イベントカレンダー

各イベントの時間・定員・申込方法などは科学館ホームページで確認してください。

28

日 小学校中学校年向けかがく教室
光の箱をつくる

海を見る・地球を知る「オンライン講演会 回転水槽実験から学ぶ気仙沼の流れのしくみ」

おはなしライブ

27

日 造花でハーバリウム作り

21

日 小学校高学年向け理科実験室
偏光板でつくる万華鏡の世界

14

日 平出さん・中村さんの
マジックショー

13

日 ペーパーバービーズのネックレス

7

日 お家で遊ぼうー色で遊ぼうー

ヒトコマトリビア

こう見てもアンモナイトです

アンモナイトと言えば、うずまき型を連想しますが、まるで絡まつてしまつたようなアンモナイトもあるのです。日本の石という意味の「ニッポンニテス」はそんな異常巻アンモナイトの1つで、思わず「なんじゃこりや」と言つてしまいそうです。

また、アンモナイトの化石表面にウニウニした模様が見えることがあります。これは縫合線と呼ばれるもので、殻の内側を仕切つてある壁が表面に表れた模様ですが、このかたちでアンモナイトを分類することができます。展示室で縫合線の見えるアンモナイトの実物を観察できます。ぜひご覧ください。

